



図書館員が選ぶおすすめの本



～低学年向け（小1,2）～



「イモリくん ヤモリくん」

松岡たつひで // さく・え 岩崎書店

男の子につかまってしまい、すいそうにいれられた イモリくん。そんなイモリくんをたすけだそうとする ヤモリくんと、2ひきのぼうけんの おはなしです。イモリとヤモリのちがいや 水べの生きもののことも わかります。

「おさきにどうぞ」

森山京 // 作 ささめやゆき // 絵 文溪堂

いつもこみあっているブランコにのるため、いそいで こうえんに むかうブタのこ。くさはらの こみちを かけていると ネコのおばあさんが「おさきにどうぞ」とみちをゆずってくれました。おもいやりのこころにきづく、おはなしです。



「絵本で出会う 星の王子さま」

サン・テグジュペリ // 原作 工藤直子 // 訳 ひさかたチャイルド

ちいさな星(ほし)に 王子さまが 住(す)んでいました。ある日 旅(たび)にでた王子さまは、いろいろな星でおかしな大人(おとな)たちと出会い、やがて地球(ちきゅう)にもやってきました。地球で、キツネと友だちになった王子さまでしたが・・・。



「文房具のやすみじかん」

土橋正 // 文 小池壮太 // 絵 福音館書店

まもるくんが 宿題(しゅくだい)をおえて 外(そと)に あそびにいくと、文房具(ぶんぼうぐ)たちが うごきました。えんぴつ、消(け)しゴム、色(いろ)えんぴつ・・・。

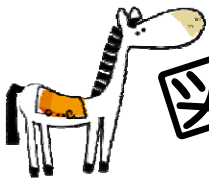
えんぴつで どうして字(じ)がかけるのか、消しゴムで どうして字(じ)がけせるのか、「かくこと」「けすこと」のしくみを、たのしく おしえてくれます。



※対象年齢は目安です。

※裏面もごらんください。





図書館員が選ぶおすすめの本



～低学年向け（小1,2）～

「絵本版 こども伝記ものがたり3 ライトきょうだい」

鶴見正夫 // 文 徳田秀雄 // 絵 チャイルド本社



せかいではじめて、「ひこうき」とばすことにせいこうした人をしていきますか。
このおはなしは、あるきょうだいが「ひこうき」とばすためにどのようなどりよくをしたかをえがいています。

「かこ・さとしかがくの本3 たねからめがでて」

かこ・さとし // 著 若山憲 // 絵 童心社



はながさいたあと、みがなったあとは、しよくぶつはどうなるのでしょうか。
たねからめがでてはながさいて…。
わかりやすいえでしよくぶつのふしぎがわかるえほんです。

「おでかけすいぞくかん」

阿部浩志 // ぶん 北村直子 // え 荒井寛 // かんしゅう 学研教育出版



カクレクマノミやマンボウなど、すいぞくかんにいる生きものたちのくらしやひみつをしょうかいします。
すいぞくかんではたらく人のおしごともしょうかいしています。

「ちっちゃなサリーはみていたよ ひとりでもゆうきをだせたなら」

ジャスティン・ロバーツ // ぶん クリスチャン・ロビンソン // え 中井はるの // やく 岩崎書店



クラスでいちばんちっちゃなサリーは、ともだちがいじめられているのをみかけました。
でもだれもなにもいいません。
そこでサリーは、ゆうきをだしていいました…。

「だいすきなマロニエの木」

オーサ・メンデル＝ハートヴィッグ // 文 アネ・グスタフソン // 絵 ひだにれいこ // 訳 光村教育図書



はるがちかづくとおひさまの光(ひかり)がねむっている木をおこしてくれます。でも女の子のマロニエの木はねむったまま。
ある日、マロニエの木がきられることになってしまい…。

「子どものための ラ・フォンテーヌのおはなし」

マーガレット・ワイズ・ブラウン // 再話 アンドレ・エレ // 絵 あべきみこ // 訳 こぐま社



「コオロギとアリ」「キツネとぶどう」などよく知られた13のおはなしがのっています。
おはなしだけでなくえもたのしめるうつくしいえほんです。

「どうぶつがっこう」

トビイルツ // 作・絵 PHP研究所



どうぶつがっこうは、どうぶつたちが先生で、にんげんの子どもがせいとです。
そこに、しまうまの子どもが入学します。
どうぶつがっこうでは、どんなことをべんきょうするのでしょうか。

「空からきたひつじ」

フレート・ロドリアン // 作 ヴェルナー・クレムケ // 絵 たかはしふみこ // 訳 徳間書店



ひつじ雲(ぐも)のなかまとあそんでいたら空からおちてしまったというひつじ。
クリスチーネはひつじを空へかえてあげようとあれこれかんがえます。
クリスチーネのねがいはいかなうのでしょうか。